

学校教育目標 「学びの広がりと深まりのある学校」

これからの社会を生きる子どもたちは、自ら課題を発見し解決する力、コミュニケーション能力、物を多様な観点から考察する力、様々な情報を取捨選択できる力が求められると考えられる。そのためには、確かな学力、豊かな人間性、健康、体力の知・徳・体をバランスよく育てることが大切である。そのために、学校では、自ら学習に取り組む意欲を養い、知識・技能を活用し、自ら考え判断し、表現しながら学びを広げていくことが大切であるとする。そして、互いに学び合いながら、考えを深め、学び合う楽しさを実感できる取組を展開していきたい。

学びの広がりとは以下2点が含まれる

広がり・・・地域ぐるみの学校づくりとして、地域に学校が発信として広げていくコミュニティであること。その中で子どもたちが思考力・判断力・表現力を身につけ、豊かな人間性を育てていくこと

深まり・・・子どもたちが自分の考えを深めていくとは、様々な体験活動や学習活動を通して、自分の考えとを比較し、共通点や類似点、相違点を伝達し話し合い、深める。さらに話し合ったことをもとに自分の考えを見直し、再構築できること。

めざす子ども像

心やさしく すこやかに 大きな希望を胸に抱く子

協同

たくましさ

自立

「めざす子ども像」として以下のように設定した。これは、単に自分が将来就きたい職業にこだわらず、「こんな人間になりたい」という生き方をも含めた大きな希望（“夢”や“願い”）を抱き続け、その実現に向けて今何をするのかという長期的な展望をもつ。また、統合校として統合の大

きな目的であった集団で学ぶことの良さを生かしつつ、協同・たくましさ・自立を身に付けることができる子を目指していきたい。

心やさしく（協同）とは・心と力を合わせることに喜びを感じる子

- ・思いやりをもって接する子
- ・自己肯定感や自尊感情を育み、互いに認め合う子

すこやかに（たくましさ）とは

- ・進んで運動し、元気で活力のある子
- ・最後まで粘り強く取り組む子
- ・偏食せず丈夫な体をつくる子
- ・安全に対する意識を高く持ち続ける子

大きな希望を胸に抱く子（自立）とは

- ・主体的に学ぶ子
- ・豊かに感じ、思考・判断し表現できる子
- ・よりよい自己を創造できる子
- ・夢や願いを抱き、実現に向けて長期的な展望をもつ子

＜洛央教育の4つの重点＞

＊子ども同士が高まり合う学習集団 ～理数教育を通して～

- ・理数教育を研究の中心に据え、共に学び合う喜びを実感するような学び合いの場を設定し、習得した知識や技能を活用する力（論理的思考力・判断力・表現力）を高めていく授業を目指して研究を進める。
- ・各教科（主として国語科）、総合的な学習の時間、道徳において機会をとらえ、小集団による話し合い活動や話型指導の充実を図り、表現力の育成にとどまらず、考えたことを言葉にすることでさらに考えを深め、思考力を高める。
- ・総合的な学習の時間を中心に、学びをつくる子ども、かかわりをつくる子ども、自分をつくる子どもの目指す姿を明確にし、共に学び合う喜びを実感するような学び合いの評価や分析につなげる。
- ・自然環境に恵まれているとは言えない本校の環境を意識し、「おもしろサイエンス」をはじめとして、自然に親しみ、自然に対する見方を育む場を多く取り入れる。

＊生き方探究教育（キャリア教育）

- ・「人間関係形成能力」「意思決定能力」「情報活用能力」「将来設計能力」の4つの力を中心に置いた＜キャリア発達＞を促す視点を全教育活動の根底において取り組む。
- ・子どもたちが「学ぶ楽しさ」すなわち「満足感」や「達成感」など自己表現の喜びを味わい自己肯定感を育みながら、意欲的・主体的に学ぶことに重点を置く。

＊人権教育

- ・「豊かな心」を育む活動を推進し、人権文化の担い手となる子を育む。
- ・すべての児童に系統的な人権教育の推進を通して、豊かな人権感覚を育て、実践的態度を培うための取組を推進する。
- ・一人一人を認め、個々の個性が生かされる中で友だちも自分も大切に作る学級・学校集団づくりを進める。（生き方探究教育と関連）
- ・規則は自分を守り、他を大切にするためにあることを自覚させ、規範意識の醸成を図る。

＊地域ぐるみの学校づくり

- ・「洛央いきいきコミュニティ」を核として学校・家庭・地域の連携を図り、地域の伝統的な文化や産業、あるいは人を教材化した体験的な学びの展開を大切にする。
- ・上記のような学習を展開することで、地域に愛着を感じ、地域の次代を担う子どもを学校・家庭・地域の連携の下で育む。
- ・学校が「学びの場」であることの自覚と誇りを確認しつつ、家庭の教育力をいかに育て、活用していくかを考え連携をする。